

## 第 21 回出前まちづくり委員会 in たつの

### 「つなぐ未来へ龍野の町並み」修理実績報告会

報告者 田中 英男

「龍野」は、2019 年 12 月に「たつの市龍野伝統的建造物群保存地区」として、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、町並み保存の取り組みが進められている。この度、選定後の修理事業やまちづくり活動を振り返り「龍野」を次世代に伝えるための取り組みへ進化させることを見据えて報告会を開催した。

日時：2026 年 1 月 16 日(金)13:00～17:00

場所：たつの市中央公民館

参加者：27 名

(会員 20 名、一般 7 名(うち市職員 3 名))

## ■開会挨拶

### 岸野裕児氏（兵庫県建築士会まちづくり委員会委員長）

出前まちづくり委員会は、1999 年から隔年で開催している。龍野の町並みに関して、建築士会は重伝建地区選定に向けた保存調査報告書の作成、連携協定の締結等、龍野地区に全面的に関わりながら町並み保存を進めてきた経緯がある。



【開会挨拶：岸野裕児氏（まちづくり委員長）】

## ■来賓挨拶

### 山本実氏（たつの市市長）

建築士会の皆様には、歴史的まちづくりについて、事前調査から推薦、連携と多大な協力をいただいていることに御礼申し上げます。重伝建選定後、14 件の修理・修景を実施することができた。今後も町並み保存に支援を賜りたい。



【来賓挨拶：山本実氏（たつの市市長）】

## ■基調講演「立ち上がり期と今をみて」

### 木村篤典氏（たつの市都市政策部町おこし課課長）

龍野地区が町並み保存への取り組みを始めたのは昭和 50 年頃からで、当時は行政主導で重伝建地区選定申出を行おうとしたが住民合意が得られなかった。その後、景観制度を活かした町並み保存を進めていくうちに、2000 年代に入ってまちづくりに対する機運が向上し住民主導で進めていくことができ、全国で 119 番目の重伝建地区選定に至った。その後コロナ禍による影響はあったものの、龍野地区への来訪者が増加し、新規出店者の増加や民間まちづくり会社の設立など賑わいが出ている。今後は龍野地区への関係人口を増やし、生活と観光が共存するまちの実現を目指していきたい。



【基調講演：木村篤典氏（町おこし課課長）】

## ■基調講演「伝建事業について」

小谷慧氏（たつの市都市政策部町おこし課町並み対策係主査）

伝建制度の運用主体は市町村で、何を規制し保存措置を講ずるかは市町村の責任で行う。伝建事業は、保存修理、現状変更行為許認可、関係機関の調整等があり、保存地区全体の生活環境の向上と文化環境の発展が目的である。

市担当者は人事異動がある。保存修理等で「群」としての質を確保するため、龍野に特化した専門機関の設立及びサポート体制の確立が急務である。



【基調講演：小谷慧氏（町並み対策係主査）】

## ■実績報告

以下4名の設計者から担当物件の概要や修理方針決定について苦労したことなどの報告があった。

### 清水克俊氏（岸本家住宅）

龍野地区の修理事業の1件目であり、前例のない中、痕跡調査や情報収集を行いながら進めた。痕跡調査は解体しないと分からない部分があり、図面補正及び根拠の整理が多く手間がかかった。個人事務所で保存修理事業を受けていくのは負担が大きすぎる為、協力できる団体が必要である。



【実績報告：清水克俊氏】

### 渡邊一洋氏（古林家住宅）

保存修理事業の原則は創建当時の形に戻すことだが、この建物場合は昭和初期の医院開業時の意匠の文化財的価値が高いと判断し、現状維持の修理方針とした。天窗のある建物だったが、痕跡調査により戦後に造られていることが分かった。



【実績報告：渡邊一洋氏】

## 酒井吉一氏（小田家住宅）

丹波篠山市での実績を活かして取り組んだ。昭和初期に看板建築に改修されており、その意匠の是非で意見が分かれたが、最終的には棟続きとなっている隣家の意匠や仕上げ材調達の関係から創建時に復元することとした。



【実績報告：酒井吉一氏】

## 福岡隆夫氏（片岡家住宅）

出石での実績を活かして取り組んだ。屋根の葺き替えが主だったので痕跡調査はほとんど無かったが、江戸期の建物とのことだったので小屋裏で部材の調査を行った。

龍野では実績時の痕跡確認方法が写真台帳のみとなっているが、出石では修理箇所箇条書きや履歴整理表をまとめ、設計団体に共有している。



【実績報告：福岡隆夫氏】

## ■現地視察

実績報告の順に現地を巡り、修理物件を見学しながら各実績報告者から現地説明を行っていただいた。



【現地視察：実績報告者から現地説明】

## ■意見交換会

ファシリテーターを森崎輝行氏（兵庫県建築士会歴史的建築物委員会委員長）、パネラーを実績報告者4名とたつの市小谷主査として以下の4項目について意見交換を行った。



【意見交換会】

### ① どの時代にあわせる？

- ・昭和初期（板絵であるべき姿が特定）
- ・施主の意向と痕跡の整理（安原家では江戸）
- ・「古い建物が良い」という施主の希望
- ・施主の階高が低い時（江戸）に戻りたいという想いと、医院建築の文化財的価値



## ② 工夫したこと 工事費、工法、近隣

- ・伝建だからといって特別な工夫はしなかった。  
(文化財修理同様、資料や痕跡整理を丁寧に)
- ・意匠保存だけでなく、所有者の方が納得して喜んでもらえるようにした。
- ・構造補強は特に要望なかった。(耐震評価なし)
- ・痕跡調査時に建物内の家財を動かすのが大変だった。
- ・隣と棟続きになっていたので工事中の騒音なども含めて苦労したが、施工者が地元の方で施主とのパイプになってくれたので良かった。

## ③ 重伝建をまちの将来にどう活かすか？

- ・重伝建にふさわしいファサードが連続していくことが望ましい
- ・土地用途によるが、商店街については店舗が増えてにぎわっていくのがいい。
- ・インバウンドが増えている。
- ・重伝建地区の大半はお年寄りが多いため、今後空き家になり、新しい人が住むようになると思うが、住んでいる人の思いを理解して守っていける人が入ってくれば良い。
- ・龍野地区は、県の景観形成地区に指定されていたので伝建制度導入の話もしやすかった。
- ・地域が持つポテンシャルは高い。
- ・何を魅力としてPRするかブランディングを行い、どう活かしていくかが大事。
- ・設計団体を設立しある程度の水準を保てるようにしていくことが大事。

## ④ 龍野らしさとは？

- ・城下町なのに龍野城の話が出てこない。町人地と城下町は一体で考える必要がある。
- ・昔から重伝建にしようという話があったが、その時は今の区域よりももっと広い指定案だった。
- ・地域住民は脇坂氏の歴史を大切にしている。
- ・保存地区と周縁部も含めた魅力発掘及び活性化を図っていく必要がある。



【意見交換会】

## ■閉会挨拶

### 正木恵子氏（兵庫県建築士会会長）

これまでの龍野地区との信頼関係で築いてきたまちづくりであると思う。建築士会としても今後も力添えしていきたい。



【閉会挨拶：正木恵子氏（兵庫県建築士会会長）】